

■火の鳥 (1909-10)

2幕のパレエ
ヘルベルト・シュナイダー校訂
40分

SW 2062—6,510円
(スタディ・スコア)

ED 3279—5,250円
(作曲者によるピアノ・リダクション)

▶パートはレンタル。また、オリジナルの4管編成オーケストラを縮小した3管編成ヴァージョン(ハンス・ブリューナー編曲)もレンタル。

■組曲「火の鳥」

(1912年版)

28分

▶スコア、パートともレンタル。

■組曲「火の鳥」

(1919年版)

20分

SW 1149—6,090円
(スタディ・スコア)

▶2種類の吹奏楽編曲版(アールズ+フェネル編曲、およびデューカー編曲)は、レンタル。

■パレエ組曲

「火の鳥」

(1945年版)

28分

SW 2063—3,045円
(スタディ・スコア)

▶パート譜はレンタル。

編曲作品(室内楽、器楽)

—ヴァイオリンとピアノ

■《スケルツォ》

サミュエル・ドゥシュキン、作曲者編曲/4分
ED 2250—2,520円

■《子守歌》

サミュエル・ドゥシュキン、作曲者編曲/4分
ED 2186—2,100円

■《子守歌》

作曲者編曲/3分
ED 2081—1,890円

■《前奏曲と王女たちのロンド》

ED 2080—2,100円

—ピアノ

■《子守歌》

フランツ・ウィルムス編曲
2分/ED 2547—1,680円

■《凶悪な踊り》(子守歌)

《フィナーレ》
ガイド・アゴスティ編曲
10分/ED 2378—2,730円

■《王女たちのロンド》

フランツ・ウィルムス編曲
4分/ED 2548—1,890円

■《スケルツォ》(子守歌)

《凶悪な踊り》
スーリマ・ストラヴィンスキー編曲/12分
ED 6574—2,730円
▶スーリマはイーゴリの子。

註:掲載の価格は2010年6月30日現在の当社販売の際の情報です。為替レートの変動等で予告なく変更することもあります。

1910→2010

ストラヴィンスキー《火の鳥》初演から100年

2010年6月、イーゴリ・ストラヴィンスキーの《火の鳥》は初演から100年目を迎えました。これまで数えきれないほどのパレエ団やオーケストラによって繰り返し取り上げられてきたこの作品は、20世紀を代表する名作と言えるでしょう。

《火の鳥》はもともとパレエ音楽として、セルゲイ・ディアギレフ率いるロシア・パレエ団により、1910年6月25日パリで初演されました。ストラヴィンスキーはこの時まで28歳でしたが、この作品の大成功によりその才能を世に知らしめます。

当時からパレエ《火の鳥》は大変人気があり、オリジナルである1910年のパレエ音楽だけでなく、1912年、1919年そして1945年に作曲者自身によって編まれた3種類の演奏会用組曲、1910年の編成を縮小したパレエ版、そして1919年の組曲を基にした2つの吹奏楽版など、さまざまなヴァージョンが存在します。また、パレエ音楽のいくつかのナンバーは室内楽やピアノなどにも編曲されており、ショット・ミュージックから数多く出版されています。

ショット・ミュージック

海外
& 新刊案内

2010年7月

2010年6月30日発行
ショット・ミュージック
株式会社
〒101-0047
東京都千代田区内神田
1-10-1 平富ビル3階
電話 (03)6695-2450
ファクス (03)6695-2579
www.schottjapan.com
sales@schottjapan.com